

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岐阜県立大垣北高等学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒503-0017

岐阜県大垣市中川町 4-110-1

E-mail c27311@gifu-net.ed.jp

Website <http://school.gifu-net.ed.jp/ogkkita-hs/>

幼児児童生徒数 男子 507 名 女子 456 名 合計 963 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

「清流の国ぎふ アジアを学び世界をつなぐ 1600 人のリーダー育成」を活動テーマとして、グローバルリーダーとしての資質・能力を育成することを目標としている。具体的には、アジア諸国における社会・ビジネス課題を題材とし、専門的な知見を有する大学やアジア諸国に事業展開する大垣のグローバル企業等と連携を図りながら以下の課題研究を行った。

生徒は自主的活動の中にも国際理解の視点を取り入れ、文化祭や生徒会の福祉活動でアジア諸国に関連する活動や発表を行った。

(1) 1 年課題研究

① 岐阜県の課題調査

手法を学ぶ素材として接しやすいローカル（県内）課題の解決策に取り組み、講演を素材として、情報スキルや KJ 法を身に付けつつ、グループで課題解決策を探究し、グループでプレゼン発表を行った。

② 高山フィールドワーク

岐阜県の課題調査に関わって、テーマを「観光・文化」の 1 つに絞り、地域課題解決の仮説検証のための方策としてインタビュー手法を実践として行い、報告書にまとめた。

③ 日本語論文作成及び英語エッセイ・プレゼン作成

本校が設置する探究領域の各分野（医療・教育・ビジネス・環境・開発）に関する講義を聞き、興味関心の近い仲間とグループを結成し、1,500字程度の日本語論文を作成した。また、グループ研究を行った成果を英語で表現した。



〔高山フィールドワーク〕

〔1年生課題研究〕

(2) 2年課題研究

① グローバル講演会及び課題解決型ワークショップ

2年生の研究課題の開始に先立ち、1年間の学びを振り返り、「持続可能な社会の実現」を目指して探究的な学習を行うことの意義を再認識した。

② 探究的な活動と日本語論文作成

1年次の探究を深化させ、アジアをフィールドとして、持続可能な社会の実現のための研究を行った。論文作成のための計画書を作成し、大学教員から指導助言を仰ぎ、概ね5,000字の論文を作成し、プレゼン発表をした。



(3) 英語スキル向上に関わる学習 (3年)

1,2年課題研究で学んだ内容についてさらに深く英語で理解し、議論し、研究発表ができる技術と能力の育成を目的とし、英語によるコミュニケーション能力の伸長を図った。



(4) 海外フィールドワーク

探究活動の一環として、希望者20名が12月にベトナムと、カンボジアを訪問した。グローバル課題解決への道筋を発見することを目的に、地元企業の現地担当者や連携高校・大学の生徒、学生へのインタビューや、現地での様子の視察をした。



(5) 文化祭・生徒会活動

文化祭では、生徒会執行部・厚生委員会・英語部が、地域のNPO法人の協力のもと、「フェアトレード企画（バザー・クイズ・ストラップ作り体験）」を共催した。また国際交流委員会が「ASEANを知ろう」のポスター発表を行った。

12月には、生徒会で福祉活動の一環としてペットボトルキャップを集めて子供ワクチンを支援する企画に協力をした。全校への啓発活動から回収・寄付まで全過程を生徒会執行部が中心となってい、身近にできる国際貢献を実践した。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項1-2, 2-1に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他（学校設定科目 SGH(スーパーグローバルハイスクール) 課題研究の時間）	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

本校独自教材 参考図書『課題研究メソッド』啓林館

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校設定科目「SGH 課題研究」（1・2年生各2単位、3年生1単位の計5単位）を導入し、文理問わず全生徒（3年生は選択）を対象として大学や企業との連携の下で、グローバルな社会・ビジネス課題を題材とした課題研究を実施している。 また、各教科での言語活動の充実や英語の授業と課題研究との効果的な連携を図った。具体的には国語の授業で、課題研究の基盤となる論理的思考力・表現力を身に付ける言語技術指導を導入するなど、相乗効果が発揮できるようにした。さらには、課題研究の実施に資する高大連携事業を積極的に実施した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌として、推進部を常設し部内のスタッフを中心に運営している。教務を中心に、全校体制で運営できるよう分掌をこえた連携体制を構築しているが、特に、学年単位での活動が多いので、学年所属の推進部を中心に円滑な運営を心掛けている。また、前述のとおり国語科と連携するなど、探究活動とその他の教科が相乗効果をもつようカリキュラムを工夫し、実践している。
--

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

生徒に対しては、授業ごとにアンケート記入の形式で授業評価を行う他、年 2 回実態調査として調査を行った。また、保護者・教員に対しても年 1 回同じく調査を行っている。全般的に本事業に対する評価は高く、特にグローバルな視野の広がりや、将来的展望を国外へ向ける生徒の多さの増加にそれが現れている。一方で、探究そのものが実社会と離れている傾向があり、もう少し地域に根差した身近な探究活動の構築を工夫する必要があると感じている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

学校行事において成果発表会を開催し、本校の活動内容を紹介する他、生徒も研究成果を発表する機会を設けた。また、探究活動の実施状況をホームページ上で日本語版・英語版両方で公開している。こうした情報発信の結果、グローバルな視野を持ち、国際的活動に興味関心のある新入生の割合が年々高まっていることが、効果としてあらわれている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

大垣市内の企業からは、アジア進出の視点での講演をいただき、大学関係者には SDGs の観点で講演やワークショップをいただいた。また、国連広報センターの方からも持続可能な社会を意識づけるための講演をいただいた。また、探究活動として大学教員との懇談の機会を持ち、論文作成の際の注意点や、参考資料の提示等指導助言をいただいた。カリキュラムの中で外部連携の数は多いが、有機的につなげる工夫を考えたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコ協会 ESD パスポート体験発表会 in 大垣に参加した。6 校のそれぞれ特色ある発表を聞き、ユネスコスクールの取組の多様性を再認識した。海外フィールドワークではカンボジアのシソワット高校を訪問し、生徒間交流をした。両校生徒が日常生活やグローバル課題に関する意見交換を行って相互理解を深め、持続可能な国際開発の在り方について考えた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

【探究的な学習】

本事業に加え、授業における「探究的な学習」の場が着実に増えていると感じている。そのため、「自ら課題を設定する学習」、「発表や議論の場」といった学習方法に対し前向きな生徒や主体的な学習の必要性を感じる生徒が増えている。

【国際社会への興味・関心】

卒業後の意欲として「国際的に活躍したい」と考えている生徒、「国際社会の情勢への興味関心」や、「多くの国の文化を学ぶ意欲」の高い生徒も半数前後いる。課題研究を通して知的好奇心の向上も見られるので、数値がもっと上がるようグローバルへの意識付けを工夫したい。

【多様な価値観】

事業全体の中で、異文化交流だけでなく、価値観の異なるクラスメイトとグループ活動をすることで、異なる価値観を否定するのではなく、受け入れたうえで議論する姿勢が見られるようになった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

今年度同様、SDGsを大テーマとして1年次にはローカルテーマを素材として探究の手法を学んだあと、東南アジアの持続可能性に関する探究活動を行う。2年次は1年次の探究を踏まえた論文を作成し、日本語と英語にてプレゼン発表を行う。

また、今年度の事業を通して得た課題を踏まえ、以下の2点を踏まえ引き続き探究活動を行う。

①ローカル課題とグローバル課題の融合：岐阜県における課題を発見・調査し、アジアにおける似た事例と比較検討する。両者をつなげることで、グローバルな課題をローカルな視点から捉える力を育成する。

②海外研修と課題研究の関係性：事前研修の更なる充実を図り、現地の知識の蓄積に加えて、生徒の研究領域での疑問点をもたせた上で海外研修に参加させる。事後研修では、海外研修参加者が海外研修で得た知見やクラステーマの調査結果をまとめ、授業や発表会の中で還元する。